# 石渡歴史めぐり

2015. 6. 21

## 石渡・生い立ちの歴史

石渡西端（長野運動公園側）から朝日を望む

2015.6.21

# 石渡歴史めぐり

石渡公民館

## ＜プログラム＞

◎公民館長　挨拶

第1部　石渡･生い立ちの歴史　････　（約40分）

講師:石渡公民館相談役　広沢　一由

第2部　石渡八幡神社の歴史と祭典･･（約40分）

講師:八幡神社氏子総代　畑　敏雄

第3部　現地見学会　･･････････････　（約40分）

地区内の史跡～八幡神社　（現地解散）

# 1．石渡の生い立ち

・名前の記載：「**石和田（石渡）と今井**」の村名が古文書に記述

→1329年（嘉歴4年）・諏訪上宮頭役結審下知状に記載

*＜1192～鎌倉幕府、1338～室町幕府、1590秀吉天下統一＞*

・室町時代（1448年・文安5年）**今井範貞・石渡戸隠岐守末範**

という2郷に分かれ、2武士が石渡地区を支配

→諏訪神社祭礼金の割り当て帳「諏訪御符札古書」に記載

・**石渡**は浅川扇状地末端に位置

①地下水が高く、50cm～70cm位で水が出る

②南側は「石渡たんぼ」＝水田地帯

☆古くから人が住んでいた

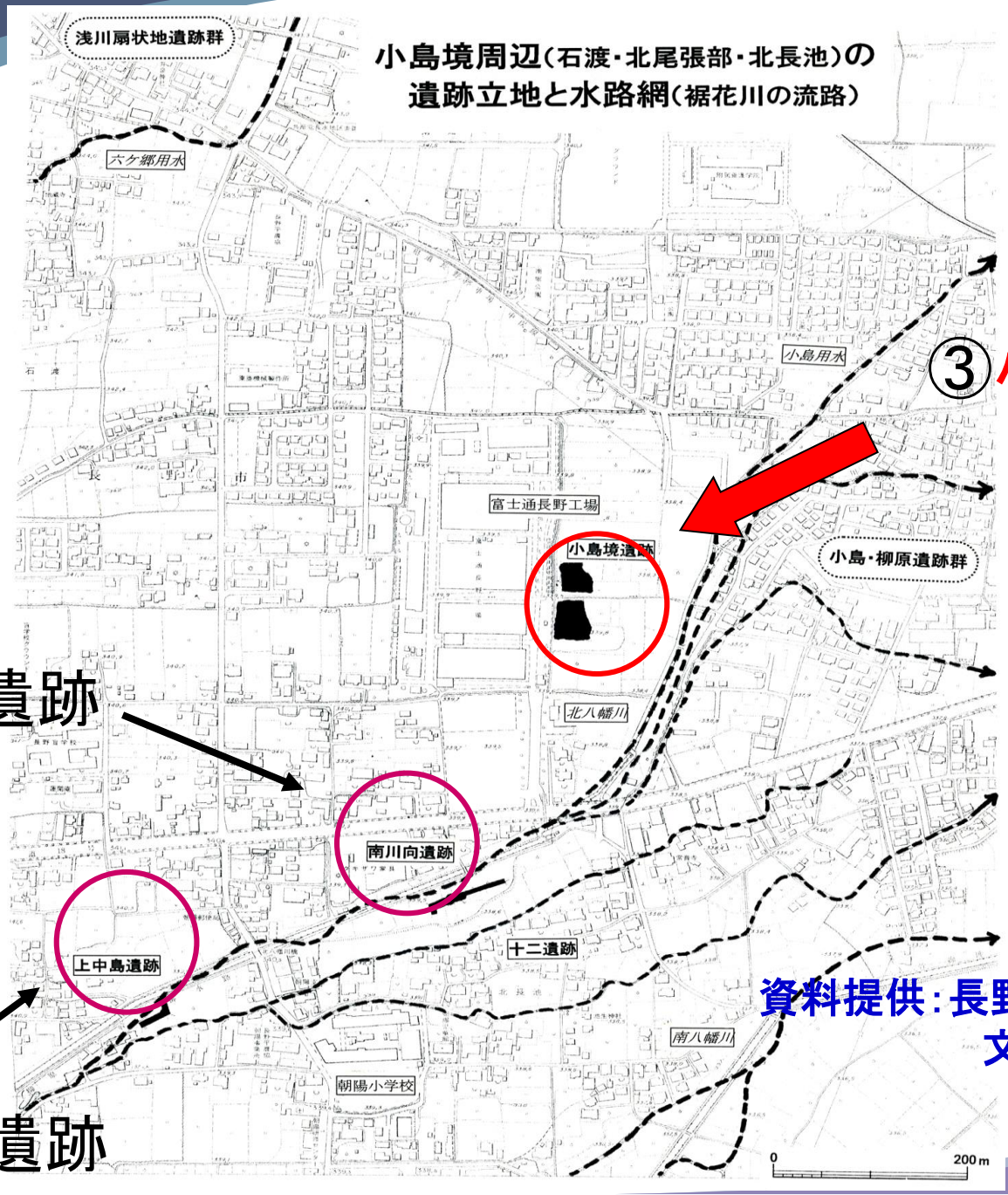
→「小島境遺跡」・・・竪穴式住居跡、土器が発掘

## ＜朝陽地区の遺跡分布＞

①南川向遺跡（昭和61年調査）・・・ロン都付近
　→竪穴住居跡、高級食器が出土

②上中島遺跡（平成5年調査）・・・炭平ビル付近
　→北八幡川沿いのムラ
　　竪穴住居跡（平安時代）

③**小島境遺跡**（昭和57.58年〃）・・・富士通東側
　→古代のアクセサリー工房




③小島境遺跡

②南川向遺跡

①上中島遺跡

資料提供:長野市埋蔵
文化財センター

小島境遺跡　　（資料提供：長野市埋蔵文化財センター）

小島境遺跡　（資料提供：長野市埋蔵文化財センター）

小島境遺跡からの出土品　（資料提供：長野市埋蔵文化財センター）

小島境遺跡からの出土品　（資料提供：長野市埋蔵文化財センター）

## 2. 石渡での米の生産高（石高）

・慶長7年（1602年） 399石5斗3升7合

・天保4年（1647年） 402石3斗8升

・明治7年（1874年） 362石2斗7合

**＜お米の単位＞**

1合＝約180. 39 CC（ml）、 1升＝10合、

1斗＝10升＝100合

1石＝10斗＝100升＝1,000合 ・・・1人・1年間の米消費量

（1食1合、1日3食で3合、3合×365日＝1,095合）

1俵＝4斗＝400合 ・・・重さ約60Kg

たわら
＜米 俵 ＞･･･籾米4斗入る
（外径＝約40cm、長さ＝約80cm）
俵･10俵＝4石

穀用
一斗
滋賀
彦根
火気厳禁
灯油容器
（灯油18L缶）
一斗枡・・・4斗で俵→1俵
（内径＝28cm、深さ＝28cm）

# ３．石渡の戸数と人口

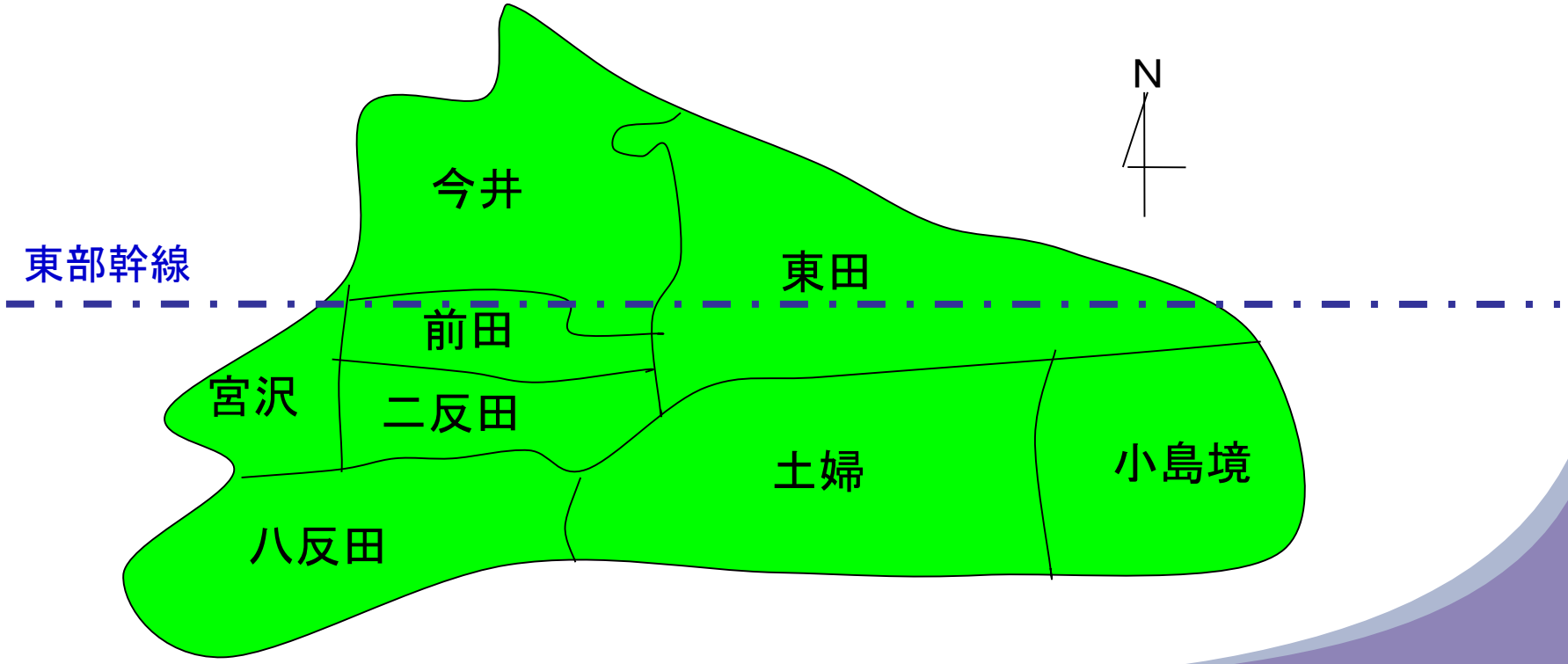
・江戸時代の終わり～明治初期・・・・・・・・約50戸
・昭和32年には約2倍　・・・・・・・・・・・・・・・約100戸
・平成9年では団地造成等で増加　・・・・・約800戸

＊安政3年（1856年）・・・・　48戸　・・・・・・236人
＊明治元年（1868年）・・・・　50戸　・・・・・263人
＊明治21年（1888年）・・・・155戸　・・・・・722人
＊平成9年（1997年）・・・・　780戸　・・・・2,320人
＊ 平成27年（2015年）・・・　844戸　・・・・2,564人

# 4. 石渡の「小字」名称

＜土地登記簿に現存　→大字 石渡 字〇〇＞

・明治18年（1885年）の地図によると、8つの小字があった
（東田の1番地～八反田の500番地まで）
（注）小島境の一部は小島地区に、八反田・宮沢の一部は
梅園団地、運動公園地籍に移行



# ５．石渡合戦と石渡館跡

・室町時代の信濃の守護（今の県知事）＝官領：斯波（ｼﾊﾞ）氏
代理者の小笠原長秀は横暴で勝手な振る舞いをしていた。

・小笠原に反発した長沼城主の島津国忠等に対し兵を向けた。
長沼配下の今井氏居城＝石渡館を攻めた（1399年11月）

・＜石渡館＞＝現：高山三良様の屋敷

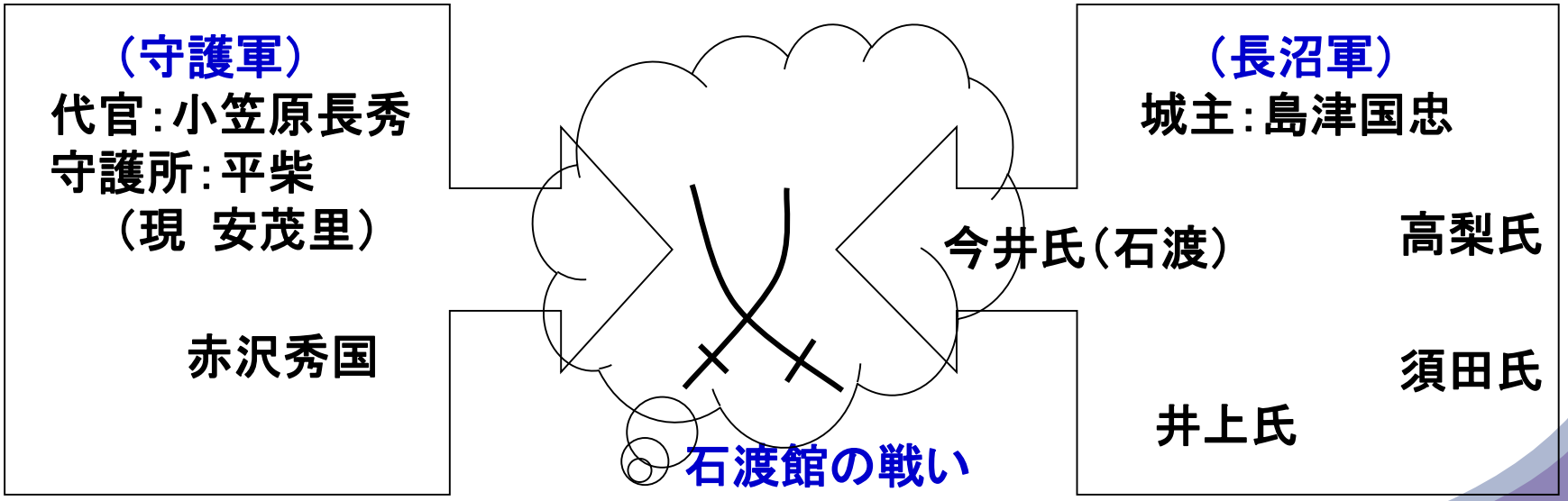
→館の大きさ：巾は約2間（約3.6m）の堀に囲まれ、1辺が40間
（約73m）の方形（四角形）
→現在は、北側の堀の一部と、西側の土塁の一部を残す。
昭和初期までは東北西の3方に堀があった。

# ＜石渡合戦と石渡館＞

**時代背景**（南北朝～室町時代）

地方での内乱が続いている中、信濃の守護（今の県知事）は幕府の官僚欺波（シバ）氏が務め、現地代理者が武士達の抵抗に苦戦していた。

その対策として小笠原長秀を着任させたが、彼の横暴な振る舞いに、長沼城主（島津国忠）と周辺の高梨・須田・井上等の武士が反抗していたため、守護軍は鎮圧のため、同志の石渡館（今井氏）を攻め一戦を交えた。



# 歴史薫るまち長沼

## 長沼城跡と史跡・句碑

長沼城跡の碑

### 長沼城跡

長沼城は戦国史上名高い「川中島の戦い」にも登場した城です。江戸時代の中期(1688年)に廃城となり、現在、城の痕跡はほとんどありませんが、古城図や検地帳、地籍図などをもとに現地調査を進めた結果、320年余の時を経て、長沼城跡が解ってきました。この城跡図はその史料を元に想定し作成した図です。南北約650m、東西約500mにおよぶ壮大な城域です。
あなたも「古城のロマン」を求めて、散策してみませんか。

長沼地区住民自治協議会・長沼歴史研究会

一茶の句碑

一茶と長沼十哲句碑

| 一茶と長沼十哲の碑 | | |
|---|---|---|
| ①松井松宇 | 西島士英 | |
| ②住田素鎮 | 村松春甫 | 中村掬斗 |
| ③立花呂芳 | 佐藤魚渕 | 吉村雲士 |
| ④白川月好 | 吉村雲士 | |
| ⑤村松春甫 | 立花呂芳 | |
| ⑥住田素鎮 | 若槻二休 | |
| ⑦松井松宇 | 佐藤魚渕 | |
| ⑧西島士英 | 中村掬斗 | |
| ⑨小林一茶 | 長沼十哲 | |
| ⑩若槻二休 | 小林一茶 | |
| ⑪小林一茶 | ⑯～㉑まで | |
| ⑫佐藤魚渕 | 小林一茶 | |
| ⑬若槻二休 | | |
| ⑭村松春甫 | | |
| ⑮西島士英 | | |

### 長沼の概要

長沼は、奈良時代の頃から拓かれ始めたといわれ、鎌倉時代には島津氏が館をかまえて近郷を支配した。戦国時代には武田氏支配のもとに、長沼城が築かれ、海津城と並び北信濃統治の中心となり、重要な軍事拠点となった。江戸時代には北国脇街道の宿場町として賑わい、俳人小林一茶がたびたびこの地に逗留し、長沼十哲と呼ばれた門人たちが生まれている。千曲川と浅川に挟まれ、水害の常襲地であったが、明治後半には、水害に強いりんごの栽培を始めた。たゆまぬ努力の結果、今では県下有数の産地となっている。地区内には数多くの社寺など貴重な文化遺産が点在し、今もなお往時が偲ばれる。

〔歴史薫るまち〔長沼〕史跡巡りマップ〕は、アグリながぬま店内及び長沼支所・長沼公民館にあります。

千曲川河川敷
← ステ堀（堀川）
守田橋
瀬石社
天神社
妙笑寺
外堀
北三日月堀
日吉山王神社
守田神社
長沼支所
土橋
大手門
町屋
侍屋敷
狼煙台
内堀
馬場
本丸
櫓台
冠木門
二ノ丸
虎口
三ノ丸
馬出し
中堀
西三日月堀
土塁
南三日月堀
アズマヤ
現千曲川堤防
天王宮
貞心跡
（元因藩守屋敷）
おんま通り
南長屋
越後街道・現県道
原立寺
正覚寺
折ひづみ
0
100

# ＜長沼城址＞

# ６．道路

・石渡たんぼと言われている水田では稲作が盛んで人馬が通れるほどの道がありました。
・時代が進み運搬に荷車やリヤカーを使用するようになり、戦後は耕運機も通れるように、道も幾分改良されました。
・神社前には「山道」と呼ばれた尾張部～三才への主要道が南北に走り、「道祖神」が神社前に祀られている。
・東部幹線道路（石渡区内を南北に分断）平成９年開通。

＜参考＞

・長野電鉄線は大正１５年に須坂～権堂間が開通
　「朝陽駅」が新設され、石渡の最寄の駅となる。
　昭和３１年に複線化、Ｓ５９年に「附属中学前駅」新設
・バスは「石渡バス停」（権堂～石渡～豊野の路線）新設
　昭和４５年～５７年　長野駅～南堀団地の路線
　平成８年には廃線となる。

# 7. 用水

「用水は農民の命！」・・・・水争いの歴史

・石渡田んぼ＝水田地帯へ北八幡川から取水＝「六ヶ郷用水」

・昔は家の雑排水、風呂の水、井戸の流し水は、川へは流さずに、田や畑の肥料に活用した。

・近年、川がコンクリート舗装に整備された為、都市型水害が問題となり、「雨水調整池」が作られた。

・「水不足　→　洪水対策」の時代に変化

# ＜朝陽村の歴史＞

・明治4年（1871）：廃藩置県が施行、同年7月松代藩領だった
　**石渡**・福島新田（現北屋島）・北長池・北尾張部・南堀・北堀の
　各村は松代県の管下、土屋坊村（現南屋島）は須坂県の管下
・同年11月長野県の管轄下に移行した。
・明治9年（1876）：**石渡**・南堀・北堀村が合併し「福田村」となる。
・明治14年（1881）：福田村は分村し、元に戻る。
・明治19年（1886）：北屋島と南屋島が合併し「屋島村」となる。
・**明治22年（1889）**：町村制が施行：**石渡村**、屋島村、北長池村、
　北尾張部村、南堀村、北堀村の6村が合併し**「朝陽村」**誕生！
　　（その後、屋島は行政上、南屋島区、北屋島区に分割）
　　＜規模：人口　2,4867人、515戸、水田240ha、畑194ha＞
・「朝陽村」名称の由来・・・この地域は南東にやや傾斜しており、
　　朝陽を受け、陽が昇るように村を発展させたいとの願い！！
＊長野市への合併：昭和29年（1954）
　　合併時の人口　4,347人、784戸

# ＜長野県の誕生＞

・明治9年（1876）：長野県と筑摩県の合併により1つの長野県誕生

・1つの長野県誕生までの経過

埴科・高井・水内
佐久・更科・小県

北信・東信＝伊那県 → 中野県 → 長野県 → 長野県→
（M2.6.24） （M3.9.17） （M4.6.22） （M4.11.20） ↓
長野県
↑
M9

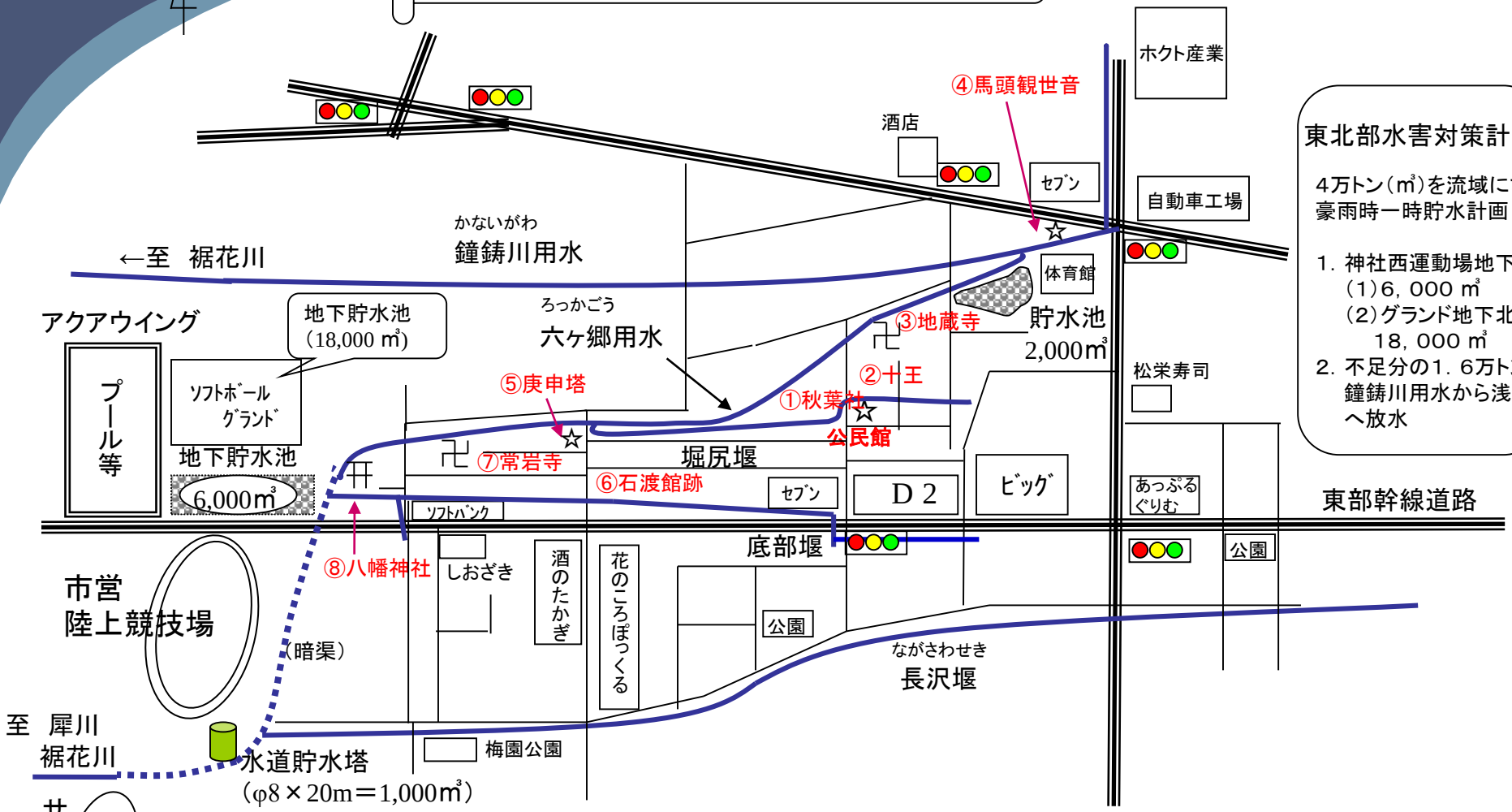
中信・南信＝伊那県 → 伊那県 → 伊那県 → 筑摩県→
（M2.6.24） （M4.6.2） （M4.11.15） （M4.11.20）

筑摩・安曇・諏訪
伊那・飛騨国*

（*後に岐阜県に移行）

# 石渡・歴史めぐりMAP

H27.6.21
石渡公民館




## 東北部水害対策計画

4万トン(㎥)を流域にて
豪雨時一時貯水計画

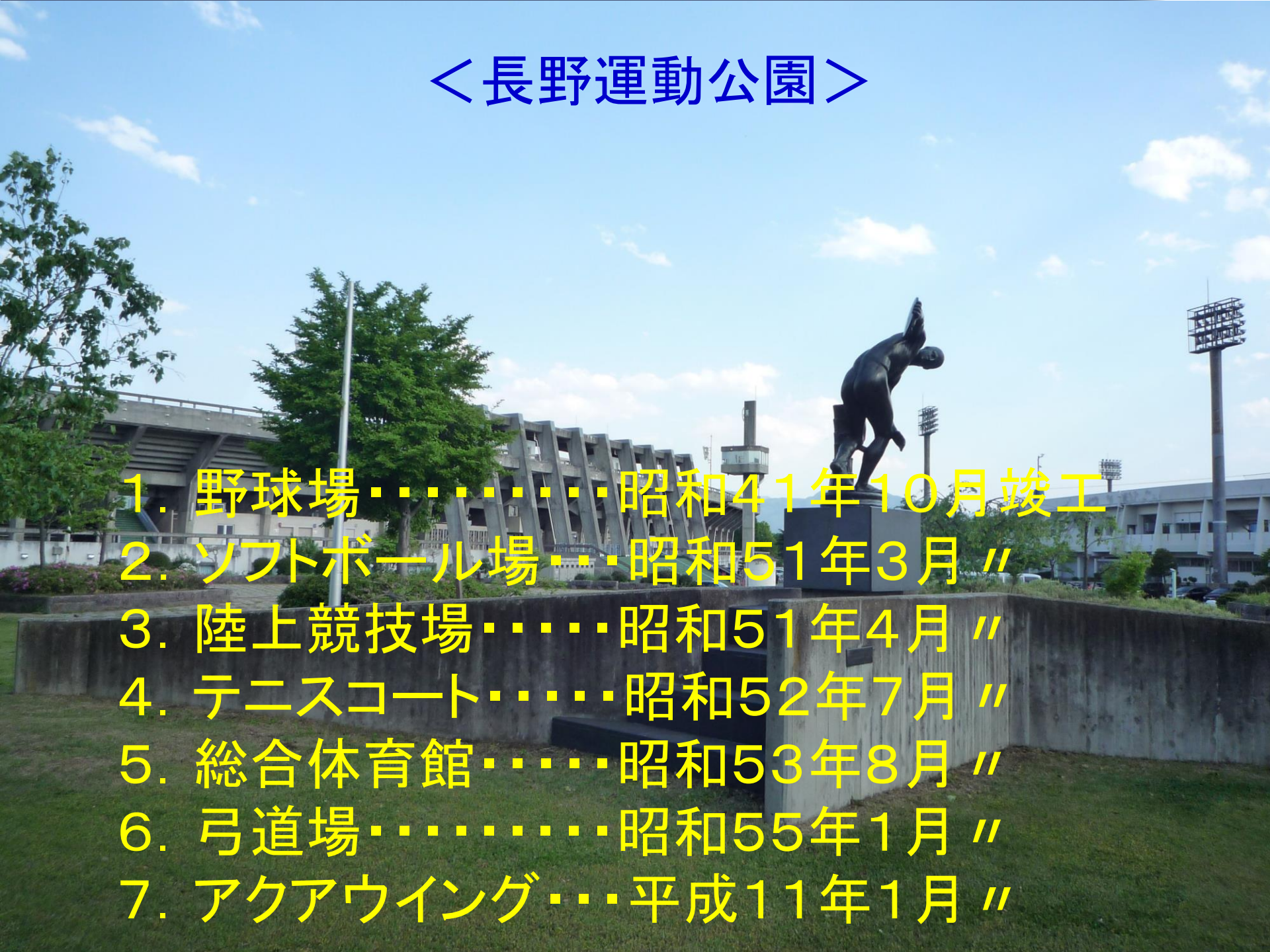
1. 神社西運動場地下
   (1)6，000 ㎥
   (2)グランド地下北
   18，000 ㎥
2. 不足分の1．6万トン
   鐘鋳川用水から浅川へ放水

＜石渡歴史めぐりコース＞　・・・　六ヶ郷用水の側道を移動します。

Aグループ＝公民館→①秋葉社→②十王→③地蔵寺→④馬頭観音→⑤庚申塔→⑥石渡館跡→⑦常岩寺→⑧八幡神社

Bグループ＝公民館→④馬頭観音→①秋葉社→②十王→③地蔵寺→⑤庚申塔→⑥石渡館跡→⑦常岩寺→⑧八幡神社

# ＜長野運動公園＞



1. 野球場・・・・・・・・・・昭和41年10月竣工
2. ソフトボール場・・・昭和51年3月〃
3. 陸上競技場・・・・・昭和51年4月〃
4. テニスコート・・・・・昭和52年7月〃
5. 総合体育館・・・・・昭和53年8月〃
6. 弓道場・・・・・・・・・昭和55年1月〃
7. アクアウイング・・・平成11年1月〃

# 朝陽・石渡地区のデータと概略地図

## 1. 朝陽地区の世帯数と人口

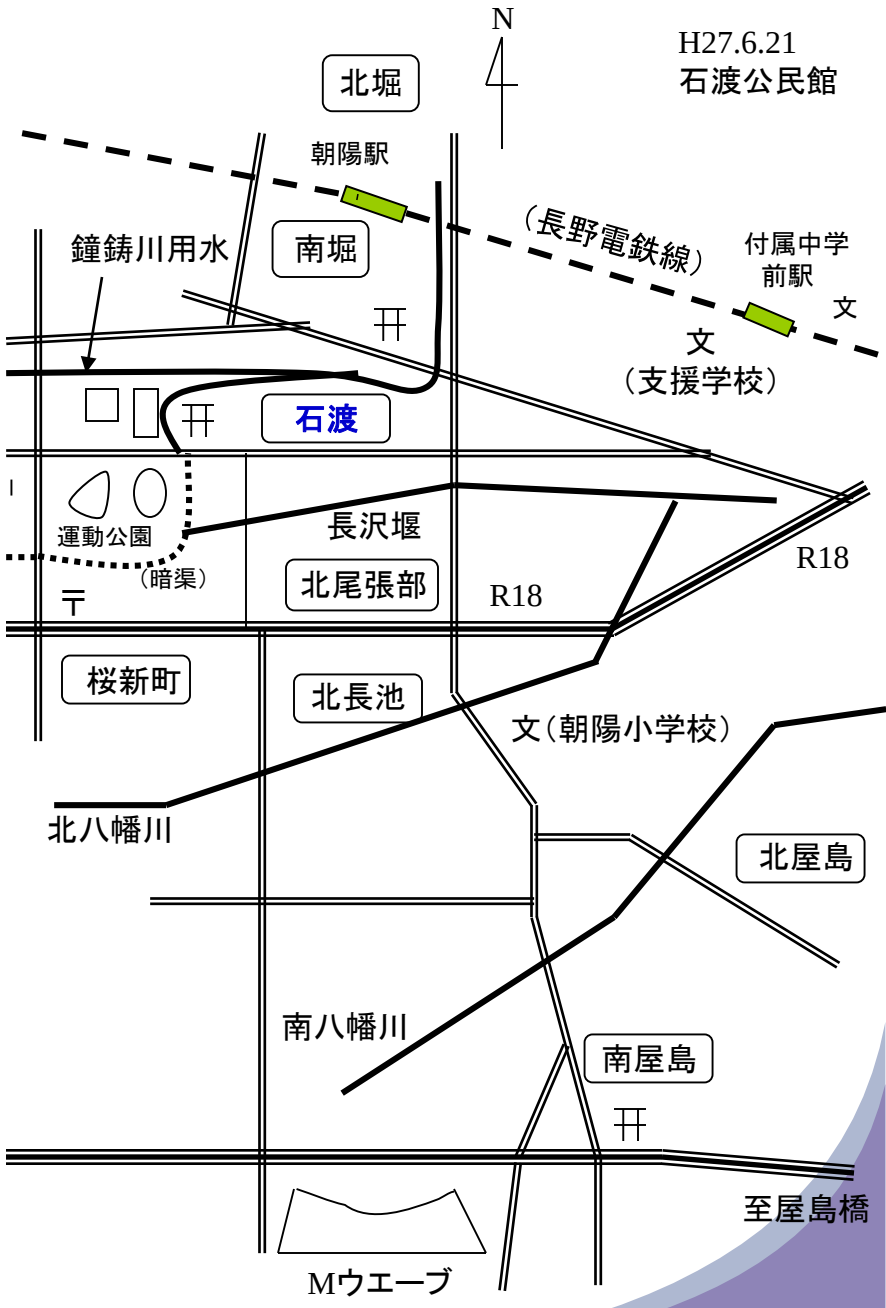
（世帯数・人口は平成27年5月1日現在）

| 地区名 | 世帯数 | 人口 | 男 | 女 |
|---|---|---|---|---|
| 南屋島 | 341 | 841 | 401 | 440 |
| 北屋島 | 177 | 546 | 257 | 289 |
| 北長池 | 1063 | 2756 | 1375 | 1381 |
| 北尾張部 | 921 | 2309 | 1161 | 1148 |
| 石　渡 | 1014 | 2564 | 1264 | 1300 |
| 南　堀 | 1182 | 2760 | 1346 | 1414 |
| 北　堀 | 1050 | 2579 | 1235 | 1344 |
| 桜新町 | 325 | 767 | 342 | 425 |
| 合計 | 6073 | 15122 | 7381 | 7741 |

## 2. 石渡区の常会別戸数

（戸数は平成27年4月現在）

| 常会 | 戸数 | 組　数 |
|---|---|---|
| 1 | 159 | 11組 |
| 2 | 125 | 8組 |
| 3 | 74 | 5組 |
| 4 | 78 | 4組 |
| 5 | 54 | 3組 |
| 6 | 91 | 5組 |
| 7 | 75 | 5組 |
| 8 | 111 | 4組 |
| 9 | 77 | 4組 |



秋葉大権現と道祖神

秋葉大権現と道祖神
秋葉社は、火伏せ・火難除けの神である。この社は、弘化四年（一八四七）村内に火事が多発したことから建てられたといわれている。
道祖神は、村内に悪疫などの侵入を防いだり、後に猿田彦と結び、旅人の安全を守る道の神となったり、縁結びの神、生産の神などいろいろな信仰の対象となっている。
平成十三年八月　石渡区

CISTERN
水そう
74
20t
十王
延命山地蔵寺

＜十王像＞（中国風の服装・顔つきも？）

# 十王

十王信仰は、中国で成立し、日本では江戸中期以降一般に広まった。

生前犯した罪により、あの世で初七日に秦広王（しんこうおう）の裁きを受けるのを最初に、以後十四日・二一日・三年忌まで、次々に各王の裁きを受け罪の軽重を判定される。

十王像は、中国的な色彩が濃く異様な顔つきや服装をしている。

平成十三年八月　石渡区

地蔵寺

# 延命山地蔵寺

地蔵寺は、上水内郡信州新町中牧の曹洞宗清水寺の末寺である。本尊は、延命地蔵尊で、享保二年（一七一七）、別峯宗見和尚や、小山田主膳（石渡村を支配した武士）によって寺が創建された。本堂は、享保五年（一七二〇）六月に建てられた。

のち本堂は、弘化四年（一八四七）の善光寺地震で倒壊、安政六年（一八五九）に再建されたもので、本堂の額は永平寺管長北野元峯の筆によるものである。

明治七年一月地蔵寺に、寺子屋をそのままひきついだ博文学校（明治八年二月新徳学校と名称変更）が開校した。その後、高田学校石渡支校、朝陽尋常小学校石渡派出所となり、明治二四年北尾張部に朝陽小学校が開校するまで校舎として使用していた。

境内には、宝篋印塔（宝暦十四年＝一七六四）、万霊塔二基（寛政十二年＝一八〇〇、慶応三年＝一八六七）や十王などがまつられている。十王は、現在の公民館の敷地にあった、十王堂に安置されていたものである。中央に据えられた地蔵菩薩や、奪衣婆などそろって現存していて、朝陽地区では珍しい石仏である。

平成十三年八月　　石渡区

延命山地蔵寺（西側）

雨水調整池
（朝陽体育館の西）

馬頭観世音と寒念仏
（石渡・南堀交差点）

馬頭観世音と寒念仏
馬頭観音は、六観音や七観音の一つで、馬の供養や無病息災などを祈願して建てられた。
北側の橋を観音橋といい、休みと祈りの場所であった。
この塔の裏側に「寒念仏同行中」とある。寒中三〇日間、寒夜に村々などを巡り鉦をたたき念仏を唱えた。塔は、寒念仏講の供養塔である。
平成十三年八月　石渡区

鐘鋳川用水の上流
（西方向）を見る
（朝陽体育館の北）

（参考）
東
かないがわ
鐘鋳川用水（石渡西端
から東方向を見る）
ハイライズ
大津B
アパマンショップ
0120-27-1000

雨水調整池
（朝陽体育館の西）
この右側で六ヶ郷用水が鐘鋳川用水に合流

地蔵寺の裏から六ヶ郷
用水の上流（西）を見る

庚申塔

庚申塔
（明暦三年造立）
庚申信仰は、十干十二
支の組み合わせで六〇日
ごとに回ってくる庚申の
夜に行う行事で、もとは
中国の道教にある。
庚申の夜は、三尸（さんし）とい
う虫が体内から抜け出し
天に昇り、天帝にその人
の悪業を告げ早死させる。
この夜は、三尸の虫が昇
天しないよう徹夜した。
この塔は、長野市内で
は古いものの一つである。
平成十三年八月　石渡区

堀 尻 堰
庚申塔
堀尻堰
六ヶ郷用水（左・東方向へ流れる）

池尻堰（左）と六ヶ郷用水（右）

石渡館（現：高山三良様宅）

石渡館周囲には堀が廻らされていた

学校法人 興隆学園
みかさ幼稚園
駐 車 場
石渡館の周囲には堀が廻らされていた

興隆山常岩寺
（右:みかさ幼稚園）

眞言山米光寺

# 興隆山常岩寺

常岩寺は、金箱の曹洞宗信叟寺の末寺で、本尊は釈迦如来である。永禄九年（一五六六）興山豊隆和尚によって創建された。豊隆和尚は、宗祖道元禅師から数えて十五世の法孫で、信叟寺や吉田の天周院、押鐘の盛伝寺を建てたり繁栄させた。

境内や墓地には、地蔵菩薩・六地蔵・宝篋印塔・万霊塔がある。境内の入り口に建てられている「禁葷酒」と刻まれている結界石や、朝陽地区では珍らしい読誦塔、更には、倉沢光寛・長谷川儀平治の筆塚がある。

倉沢光寛は、常岩寺の住職で、寺子屋の師匠もやり村内の子弟に読み書きを教えた。長谷川儀平治は、読み書きとともに花を教えた。

境内にあった不動堂は、区民の集会場として昭和初期まで使用していた。不動明王は、現在本堂内に安置されている。

常岩寺で運営している、学校法人興隆学園みかさ幼稚園は、近在では歴史が古く、昭和三〇年ころから多数の子供が入園している。

平成十三年八月　　石渡区

朝陽地区市制一〇
記念事業

常岩寺の裏（西側）

このコンクリート道路の下に
六ヶ郷用水が（暗渠）

このゲートボール場の
下に雨水調整池が！

このソフトボール場の
下に雨水調整池が！

雨水調整池排水ポンプ
変圧器（キューピクル）

六ヶ郷用水の八幡神社
南から分水

長沢堰が分水
このコンクリート歩道の下に
六ヶ郷用水が流れている（暗渠）

こども飛び出し
長沢堰
管理者 六ヶ村用水組合
水を育む森を守ろう!
戦争立法

天皇即位記念
平成二年十一月二十二日
八幡神社

奉納
奉納
八幡神社

# 八幡神社

八幡神社の祭神は、誉田別命（ほんだわけのみこと）である。もと曹洞宗地蔵寺の境内にあったが、天文三年（一五三四）現在地に移ったといわれている。領主石渡戸氏の氏神ともいわれている。

天正年間（一五七三～一五九二）に、字二反田にあった諏訪社（建御名方命（たけみなかたのみこと）・八坂刀売命（やさかとめのみこと））を八幡社に一緒にまつったといわれている。

秋祭りは体育の日、春祭りは四月吉日、七年に一度御柱祭が行なわれる。

八幡社の棟札には、天明七年（一七八七）神主深沢土佐正藤原直賀、大工棟梁徳永七郎右衛門や村役らの名が書かれている。

拝殿内には、文政元年（一八一八）と文政六年（一八二三）の俳句額が掲げられている。小林一茶の名もある。また、拝殿正面の彫刻は素晴らしいものである。

昭和三〇年ころまで行われていた、伊勢社や諏訪社の代参の費用は、諏訪田、伊勢田といわれている田からの収入でまかなっていた。

境内には、庚申塔・道祖神・蚕神・惣魂神などがある。惣魂社の下には、境内から出土した五輪塔が埋めてある。

神社前の道は、山道と呼ばれ尾張部から三ヶ山までの主要道路であった。

平成十三年八月

石渡区

消火器

拝殿正面上･龍の彫刻

日露戦役忠魂碑
蚕の神
忠魂碑

総魂霊神
惣魂神

# ＜引用･参考文献等＞

◎ ふるさと朝陽
（長野市制100周年記念誌）
（朝陽地区市制100周年記念事業
実行委員会　2003年2月１日発行）

◎幕末の信州～近代への序章～
（郷土出版社　2008年11月17日発行）

◎ 長野市埋蔵文化財センター

ご清聴ありがとうございました。
石渡・東端から東部幹線・西方向を望む